

地域福祉実践における 多職種連携・多機関協働の実際

2024.12.04 wed

十文字学園女子大学 地域福祉論Ⅱ

社会福祉法人 章佑会

和光市共生型福祉施設ひかりのさと

今日のお話

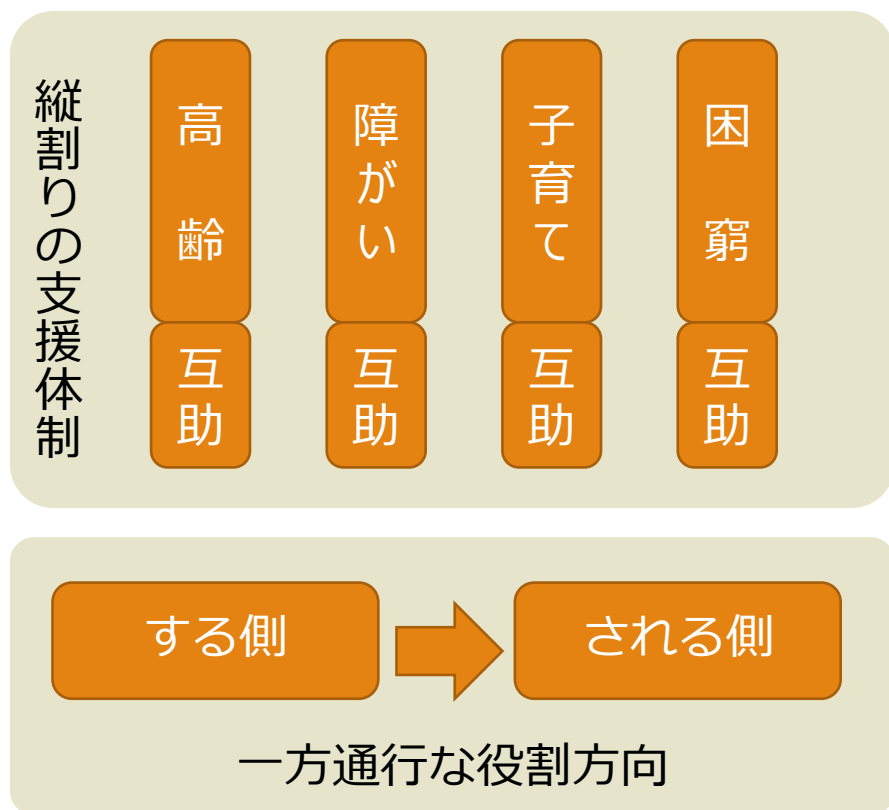
1. Key word
2. ひかりのさとの紹介
3. 多職種・多機関連携の具体的な事例
4. 地域共生社会の実現に向けてソーシャルワーカーに求められていること

1 . Key word

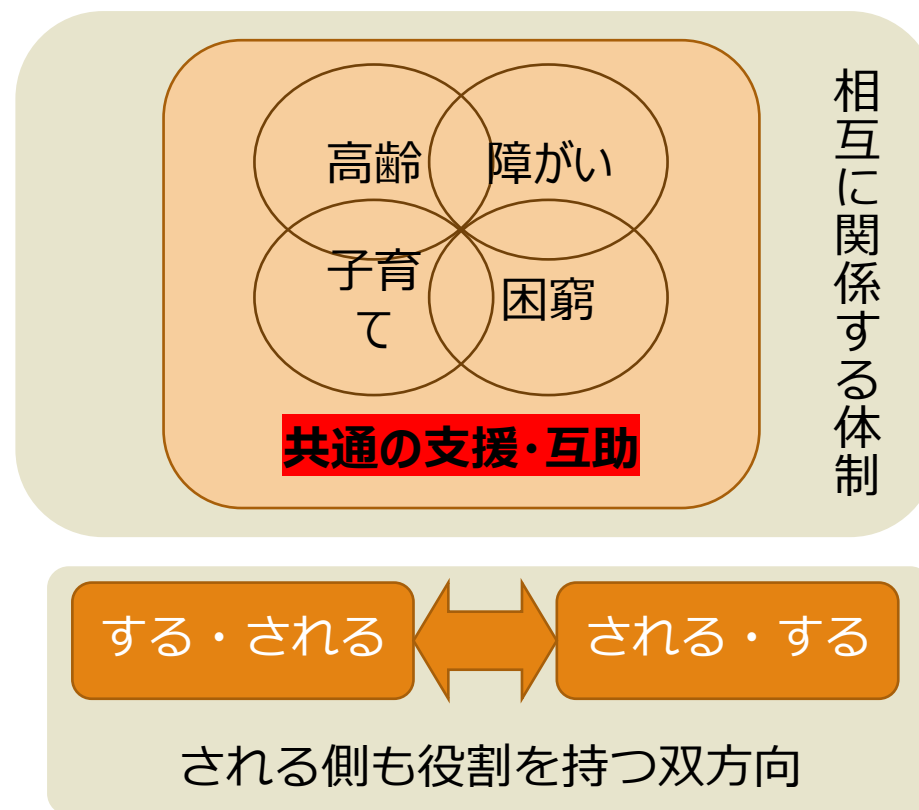
key word : 地域共生社会

制度・分野の枠や、「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会を創る

【これまでの社会・支援体制】



【地域共生社会の目指すかたち】



「する側」になること、「参加を支援」すること



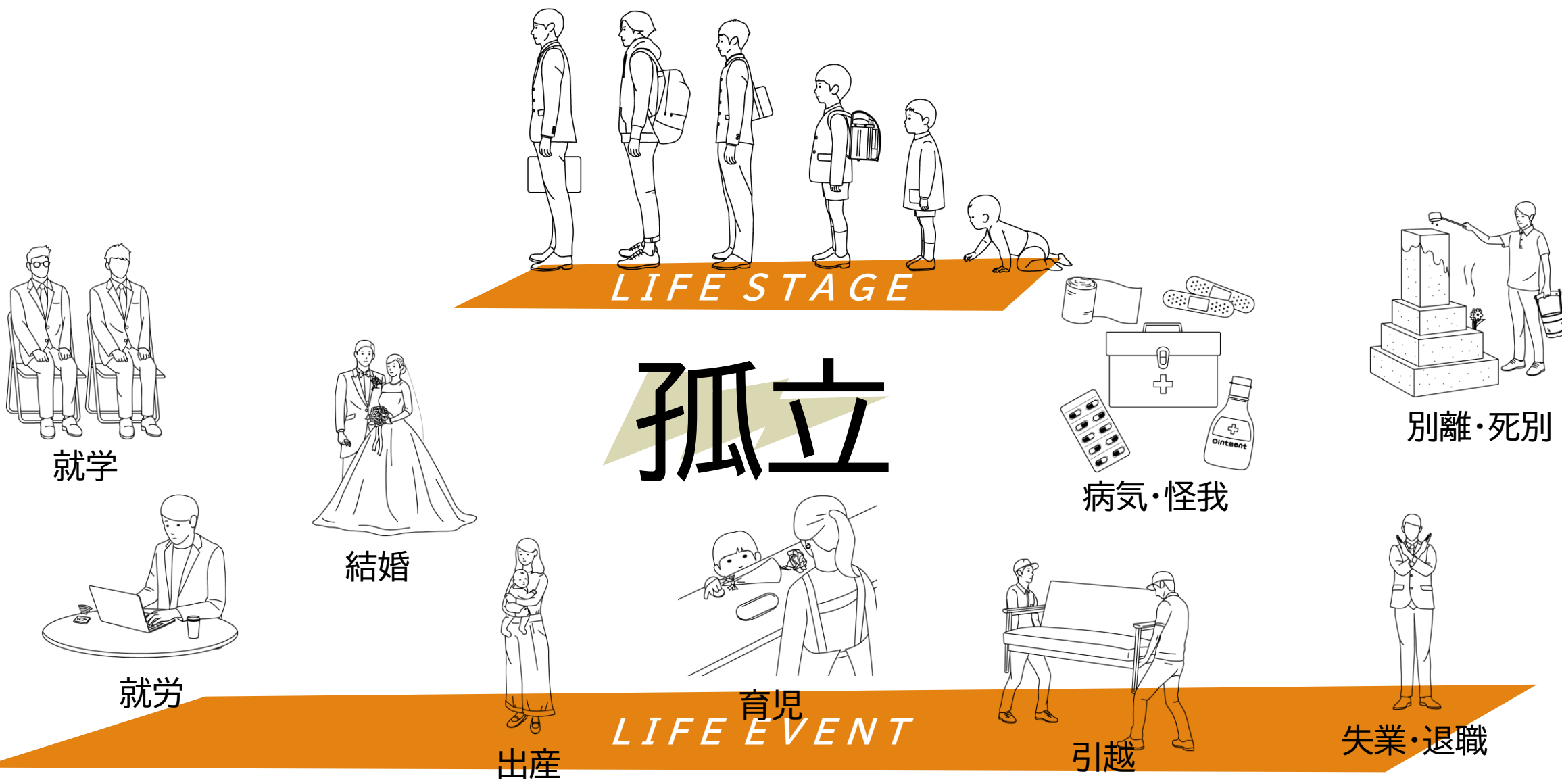
- 脳性麻痺の男性
- 生活全般に支援が必要「される側」
- 日中活動の場が見つけられない日々
- 「話すこと」が大好き
- ★ 自分の日常を発信したい！
- ★ ITが得意な利用者Aさんとマッチング
- ★ youtube動画制作し配信スタート

本人もAさんも「される側」から「する側」へ
インターネットを通して社会とつながる

key word :



key word :



key word :

高齢

1963 老人福祉法

1973 老人医療費無料化

1982 老人保健法

1989 ゴールドプラン
1994 新ゴールドプラン

2000 介護保険スタート

2017 介護保険法改正
地域包括ケアシステム推進

こども

1947 児童福祉法
1951 児童憲章

1964 母子保健法

1994 子どもの権利条約批准
エンゼルプラン

1999 新エンゼルプラン
2000 児童虐待防止法

2003 少子化対策基本法
2004 子ども・子育て応援プラン

2022 こども基本法
子ども家庭庁設置法

分野ごとの展開・発展

障がい

1949 身体障害者福祉法

1960 精神障害者福祉法

1987 精神保健法

1993 障害者基本法

1995 精神保健福祉法

2005 発達障害者支援法

2006 障害者自立支援法

2013 障害者総合支援法

2014 障害者権利条約批准

2021 改正障害者差別解消法

困窮

1950 生活保護法

・リーマンショック

2015 生活困窮者自立支援制度

2. ひかりのさととの紹介

施設概要

和光市共生型福祉施設ひかりのさとの紹介

和光市共生型福祉施設ひかりのさと

3F 身体障がい者グループホーム (障害者総合支援法)

2F 認知症対応型グループホーム (介護保険法)

1F 統合型地域包括支援センター

【高 齢】地域包括支援センター (介護保険法)

【障がい】基幹相談支援センター (障害者総合支援法)

【子ども】子育て世代包括支援センター (母子保健法)

【困 窮】くらし・仕事相談センター (生活困窮者自立支援法)

多分野、他制度がひとつの施設内に混在する施設

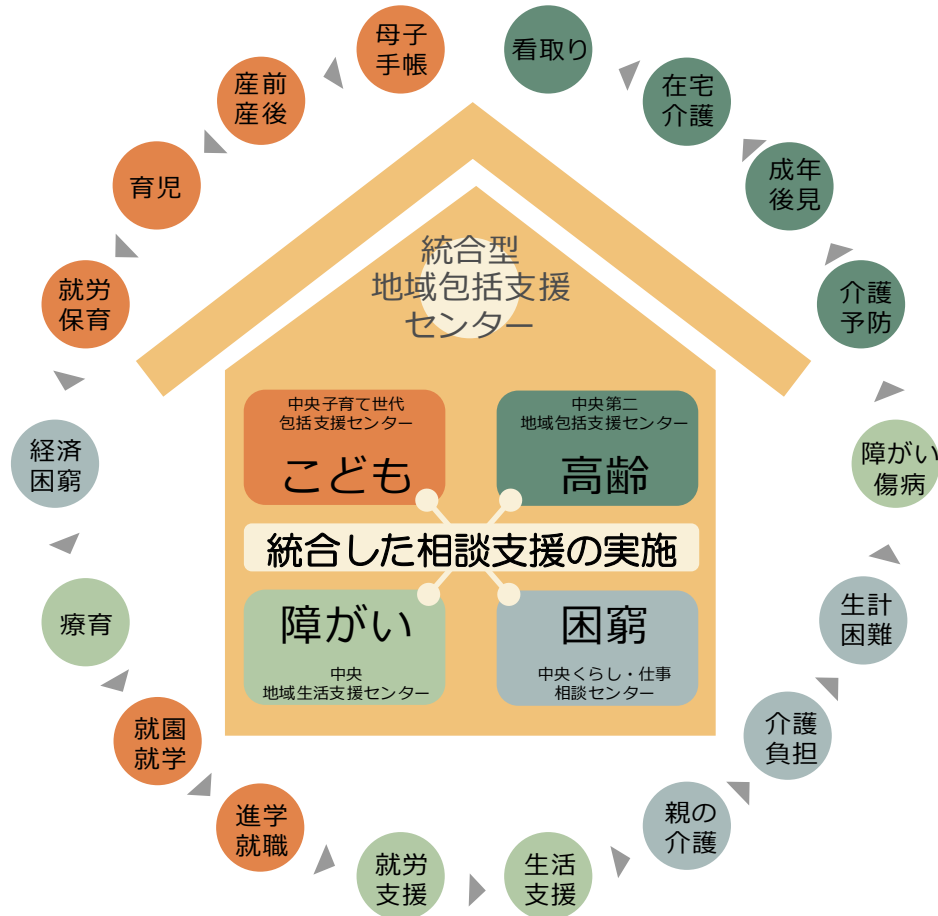


和光市共生型福祉施設ひかりのさと(2F、3F)



グループホームの入居者は、日常生活において何かしらの「支援を受けながら」暮らしている

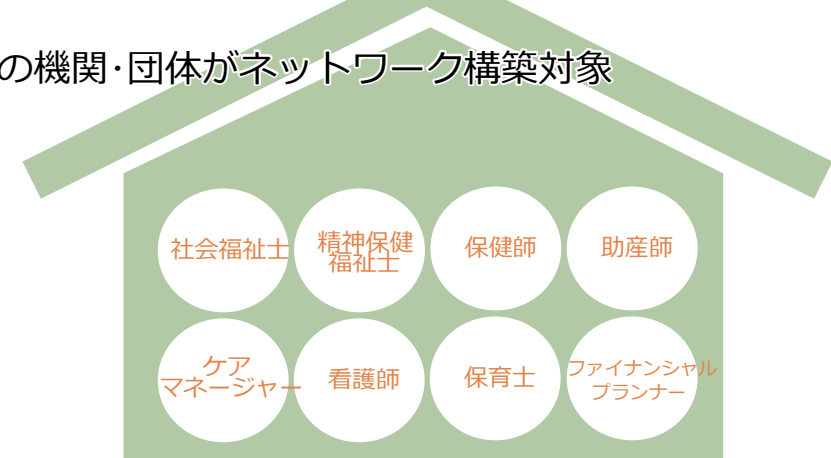
和光市統合型地域包括支援センター(1F)



多職種、多分野の「相談機関」を統合



- (相談を)断らない / たらい回しにしない / (他に)押し付けない
- 「世代・年齢」・「分野」に関係なく、継ぎ目のない支援体制の構築
- 全ケース2人体制(チーム) → わからないことはチームで補完
- 個別支援で終わらせず、「地域づくり」までの展開
- すべての機関・団体がネットワーク構築対象



活動_りびんぐるーむ

和光市共生型福祉施設ひかりのさとの紹介

Wako Living Room Project

つどう くつろぐ まちのリビング @ひかりのさと

人が暮らす「まち(地域)」が、大きな「家」だとしたら。

「家」に住む人々はみんな「家族」になるね。

じゃあ「家族」が集い寛ぐ「リビング」って、必要だよね。

「家族」みんながすべてつながりなくたってかまわない。

でも、嬉しいことも困ったことも、「リビング」でならシェアできる。

かるい気持ちで集える「リビング」をみんなで創りたい。



地域共生社会実現に向けた統合型地域包括支援センター6年の実践・実績 概観(H30～R6年度)

凡例 活動の柱 ★活動の価値/視点/方針 ・実践、実績

ネットワーク構築・多機関協働

★「社会の中の福祉」=福祉以外にもネットワーク構築が必要

- ・民生委員との役割分担と情報共有（月1回の定期会合）
- ・学童との定期交流化（ひかりのさと入居者⇄学童児童）
- ・教育と福祉の具体的連携（小学校との定期会合）
- ・精神保健分野の資源構築検討（保健所・精神保健福祉支援機関）
- ・地区社協づくり（生活支援コーディネーターとの協働、買物支援/相談会）
- ・不登校児童の居場所づくり検討（小学校、わびあとの協働）
- ・学生への実践フィールド提供（大学ボランティアセンター）

チームアプローチ・ジェネラリスト

★4分野を集約しただけでは垣根は下がらず相乗効果は生まれない

- ノウハウの蓄積
- ・支援ビジョン(視点/言語/価値)共有化
 - ・意図したチーム化（職種、分野、OJT、workshare）
 - ・**困難、複雑ケースへの対応実践**
 - ・定期会議での研修、実践省察（毎週）
 - ・各分野業務への協力（母子手帳発行など）
 - ・他分野支援の理解（事例検討、研修）
 - ・他分野専門資格の取得、業務担当

ケース支援

★各分野ごとの相談支援（委託）

- ・サービス調整
- ・プラン作成
- ・母子手帳発行 等

基幹相談支援センター(障がい)

★支援の「量」ではなく「質」の確保

- ・市内全域での困難ケース対応
- ・他センターに対する継続的OJT
- ・**多分野連携不調ケースへの仲介**
- ・虐待ケースへの介入調整
- ・センター間連絡会の開催
- ・市内従業者への研修開催

りびんぐるーむ

★「個別支援」⇄「参加支援」⇄「地域づくり」の循環づくり

★「一つの分野の互助」ではなく、「全分野の互助」を創る

★「孤独」・「孤立」を予防し、または解消するしかけ

★ジェネラリストソーシャルワークの価値であり実践である

- ・支援対象者の活躍機会（「される側」が「する側」に）
- ・社会資源の創出（特にスモールステップになる居場所関連）
- ・活動場所の提供（地区社協等団体、活動希望の個人）
- ・専門講座の開催
- ・ピア活動の支援
- ・多世代交流機会の創出（認知症カフェ・文化祭等）
- ・不足資源の相互補完（近隣学童との相互イベント）
- ・次世代人材の育成、確保（大学生の実践フィールド提供）等

現行支援に対する気づき、提言

★4分野統合で見えることには価値が生まれる

- ・「和光市方式」の限界
- ・相対的、数値的評価手法の非合理性
- ・学齢期の子育て家庭支援と学校の負担
- ・障がい分野の量的限界（早急な検討要）
- ・「障がいのある子の子育て支援」→質向上（社会包摂の視点）
- ・慣習化している様式の見直し検討

「重層的支援体制整備事業」で捉えるフィールド

Social workのミクロ・メゾ・マクロアプローチ

断らない相談支援

ミクロ(個人)

参加支援

メゾ(集団)

地域づくり

マクロ(社会)

3. 多職種・多機関連携

多職種連携・多機関協働

りびんぐるーむ__ままのたまりば

ままのたまりば



wakolivingroom



wakolivingroom 2022年1月19日
ママおしゃべり会を開催しました 🌈

会のメインはママ同士お喋りを楽しんで頂くことですが、
希望者には赤ちゃん計測、
そして今回初めて【スパイダー】という運動器具を体験して頂
きました ✨

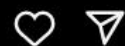
高齢者のフレイル予防で使用される事が多いスパイダーです
が、
実はお腹の引き締めや肩凝りにも
効果があるんです(^^)

年中無休で子育てに向き合っているママ達に体験して頂きたい
✨

スタッフ一同、長年想い描いていた企画を遂に実現することが
できました！

参加して下さったママからも、
「肩まわりがほぐれました」
「意外とキツイ、効きますね」
と嬉しいお言葉を頂きました。

途中、赤ちゃんの大合唱が始まり、大賑わいになった部もあり
ましたが、それも子連れならでは 🥰



ままのたまりば



wakolivingroom



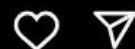
本日は8組のママ&お子さまが遊びに来てくれました(*^^*)

ママ達の楽しそうな声が飛び交い、
お子さまも沢山おもちゃで遊んでくれて、
スタッフもついつい輪に入りたくなってしまうほど、賑わいに
満ちた2時間でした💎

今回は育児を頑張っているママ達の癒しになれば、と、
手作りのハーブ石鹸をプレゼント💎🎁💎
香りに癒されてくださいね(*^v^*)

1月のママのたまりばでは、
アンパンマンの福笑いを企画しています😊💎
遊びにきてくださいね(˘0˘)/~~

#和光市
#和光市生型福祉施設ひかりのさと
#ひかりのさと
#和光りびんぐるーむプロジェクト
#和光市統合型地域包括支援センター
#される側もする側に



「ままのたまりば」 りびんぐるーむ

「見守られに来てもらおう」

- ・ あっても行けない人もいる ←参加を後押しする支援
- ・ 参加者同士がつながっていくプロセスを支援
- ・ 民生委員や地域の資源を知ってもらう機会づくり
- ・ ひかりのさと、統合型地域包括支援センターの周知

背景

- 個別支援 →「孤立している」「悩んでいる」ママ
- 地域課題 →気軽にに行ける「遊び場がない」
- 社会状況 →コロナ禍で人と触れ合う機会が減少

資源・狙い

多職種多分野の専門職
ちょうどよいスペース
支援対象者がつながる機会

出てきた成果

孤立の解消
ママ同士のつながり
統合型とのつながり

でてきた課題

マンパワーが足りない
継続に負担
地域に広がらない

ままのたまりば コラボレーション (多機関協働)

hidamarino_baby_cafe

hidamarino_baby_cafe こんにちは😊
ひだまりのBaby-Caféです！

ここ数日は少し暑さが和らいでいるかな、、、
という日があり身体がε-(´▽`*)癒としますね！

明日は和光市統合型地域包括支援センターに
出張ひだまりのBaby-Caféを開催します！
お時間は10:00～12:00

この時間内にいつでもいらしてくださいね♪

場所がよくわからない😭初めてでドキドキしちゃう方はひだまりのBaby-Caféに9:50に待ち合わせして一緒に行きましょう！

編集済み・8週間前

❤️ 💬 📍

shiotani_kazuya、その他が「いいね！」しました
7月18日

ままのたまりば × ひだまりのbaby-Café

「ひだまり保育園」(徒歩3分) → 保育園、学童を運営

「ひだまりのbaby-Café」 学童の空き時間に乳幼児の居場所を提供

【Baby-cafe】

- ・ 「支援の必要な子、親」を専門機関につなげたい
- ・ 長期休暇中は活動できない



【りびんぐるーむ】

- ・ 「支援の必要な子、親」を見つけない
- ・ “ ” に行ける場所がほしい
- ・ 自分たちだけでは人手が足りない

1. Baby-Caféに専門職を派遣 → 計測・相談対応

* 「ままのたまりば」の狙いはそのまま

2. 夏休みにひかりのさとで「Baby-Café」を開催

* 地域の資源を維持

ままのたまりば コラボレーション (多機関協働)



 wakolivingroom

 wakolivingroom ★出張ひだまりのBabyCafé 開催しました★

8月 🍉
ひだまりのBabyCafé さんの閉室期間中、
毎週金曜日、ひかりのさと交流室で
出張BabyCafé を開催させて頂きました 😊

先週は台風の影響で急遽中止の運びとなりましたが、
第4回目の今回は9組のママ&パパ&お子様が
遊びに来てくれました 🌈

十文字学園女子大学の学生ボランティアさんも来てくださり、
学生さんが事前に考えてくれた
手遊びやお歌、絵本の読み聞かせも大好評で、
皆さんニコニコ、和やかな雰囲気 😊

暑い中、遊びに来て下さりありがとうございました！

9月からひだまりのBabyCafé も再開します。
是非遊びに行ってみて下さいね(*^^*)
@hidamarino_baby_cafe

♡ 📍 📌

ままのたまりば コラボレーション (多機関協働)

個別の相談支援から地域の課題を見つけること

地域の課題はどうすれば解決できるのかを考えること

解決のために自分たちの専門性を活用すること

だけど、自分たちだけでは活用しきれなくなること

活用するために地域にどんな人や団体があるのかを知ること

地域の活動と共に動けば、自分たちの専門性も発揮しやすくなること

地域での活動が広がれば、個別の相談支援にも活用できること

多職種連携・多機関協働

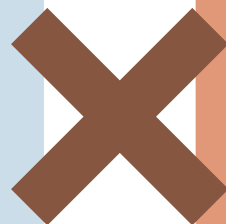
りびんぐるーむ_不登校児童と世帯支援

学校との連携・協働の重要性

- ・障がい、子育て困難、不登校．．．学校との連携・協働は重要

学校

- ・子どもが過ごす「社会」
- ・学校での課題、対応
- ・家庭の様子
- ・学校側の「困りごと」(保護者対応など)



統合型

- ・「社会」での課題を抽出→「18歳までに」
- ・必要なサービス、支援 →環境への介入
- ・養育負担、困難への介入
- ・子どもの権利

大切な視点、姿勢⇒「教育」と「福祉」は違う！
それぞれの違いを基に、目的を一つ(協働)にした役割分担(連携)



①每学期毎の学校との連絡会 + ②必要毎に担任との情報共有・会議

児童センター × 小学校 × 統合型

児童センターに居場所を創ろう

- ・ 学校に「行ける」「行けない」以外のステップを創る
- ・ 子どもが「認めてもらえる」肯定感をつくる
- ・ 親の孤立感と負担感を下げる

背景

- ・ 不登校の子が増加（要因はさまざま）
- ・ 学校に行かない＝平日は家しか居場所がない
- ・ 学校と保護者の関係性
- ・ 教師の業務過多
- ・ 親の就労にも影響 → 家計問題にも発展

本人のペースとともに、親も支援者として巻き込みながら「共通理解」を創るプロセス

対象

- ・ 学校相談室や外部フリースクール等の居場所がない就学児童生徒とその養育者

実施にあたって

- ・ 児童センター、学校、統合型が過負担にならないこと
- ・ 今年度は統合型で支援中の1～2件で進めて感触を確認
- ・ チラシは配布ではなく、対象家族に手渡しで説明

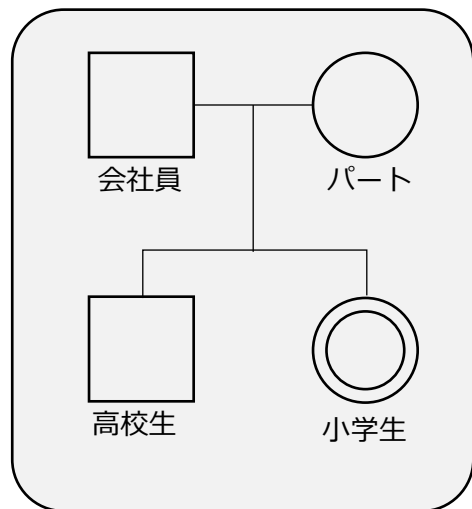
評価

- ・ 利用を通し、三者(児童センター、学校、統合型)間で評価
- ・ 学校への復帰と方法
- ・ 学校以外が子どもにとって適切と判断できるなら、支援方法を検討

留意事項

- ・ 児童センターに行くことがゴールではないため、目標設定は丁寧に
- ・ あくまで子どものペースを尊重し、スモールステップで
- ・ **周囲の大人(特に親)の期待で成果を焦らない**
- ・ 子どもだけでなく家庭についても支援する視点をもつ
- ・ **親も自らの養育姿勢に気づきや変わるきっかけを見出せる**

児童センター × 小学校 × 統合型



スモールステップ（仮設定）

- ・ 場所への定着（決めた日に行ける、決めた時間居られる）
- ・ 職員との関係構築（ソーシャルワーカーから児童センター職員へ。母分離）
- ・ 児童センター内での役割獲得
 - ・ 自信を持てた役割を学校内で準備
 - ・ 学校での役割獲得

資源・狙い

多機関・多職種での協働
「0か100」以外の評価軸形成
支援体系化できるかの検討

出てきた成果

役割を通じた自信形成
親の子に対する気づき
親の「安心感」

でてきた課題

学校の異動と方針転換
共通理解の維持の難しさ
過度な期待

「連携」 ・ 「協働」 に必要なこと

連携

辞書) 同じ目的で何事かをしようとするものが、連絡をとり合って協力して物事を行うこと。

⇒ **共通の理解**のもと、役割分担を行なう

協働

辞書) 同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。

⇒ **共通目標**のために、各々の資源を最適に組合わせて達成を目指す

「共通理解」って簡単じゃない

「共通言語」 × 「共通認識」 = 「共通理解」

おなじ言葉を

おなじ認識でとらえて

はじめて共通理解

共通理解には「賞味期限」がある！

共通理解の賞味期限

→時間が経過して状況が変わっている時

→メンバーが入れ代わる時

だから定期的に確認が必要

4. ソーシャルワーカーに 求められていること

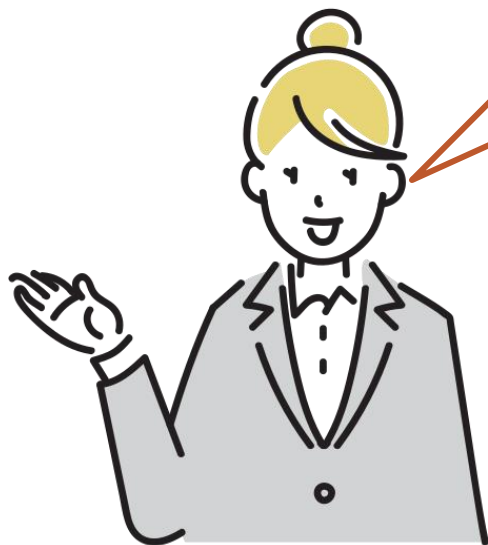
～地域共生社会の実現に向けて

ソーシャルワーカーとして

- 「障がい」や「疾病」を見るのではなく、「人」として見て理解すること
- 支援対象者の「強み」を伸ばすこと
- 「福祉」以外にも興味・関心をもつこと
- わからないことを、わからないままにしないこと
- 自分自身を知ること、自分の変化に気づくこと
- 臆せずに行動すること

足りなければ広げ、無ければ創る

ご清聴ありがとうございました



インスタやってます！
フォローしてね♪



社会福祉法人章佑会
@wakolivingroom